

大塚 智見

法学研究科・准教授

【研究】

「デジタル資産と相続」に関する研究に取り組んだ。その成果として、3本の単著論文(「利用者死亡後におけるSNSアカウントの法的取扱い——デジタルな『死』について考える」市民と法149号55頁、「死者の個人情報の保護——名誉・著作者人格権との比較を通じて」情報通信政策研究8巻1号 I B-1 頁、「死者は居残る——SNSアカウントの相続を中心に」法学教室533号53頁)を公表した。

【教育】

全学教育推進機構の「法の世界」、法学部の「民法4」、「演習」、法学研究科の「民法の基礎」、高等司法研究科の「民法応用2」を担当した(演習以外は全て初めての担当科目である。)。また、初学者向けの演習書(岩川隆嗣＝大塚智見＝小峯庸平＝瀬戸口祐基『民法演習——はじめて解いてみる16問』(有斐閣、2024年))を刊行した。

【管理運営】

法学部の教務委員会委員及び広報室の室員として貢献した。特に、教務委員会の中では、法曹コース及び「ロイヤリング(紛争処理)」を担当した。

【社会貢献】

法務省民事局調査員、総務省情報通信法学研究会構成員、内閣府新たな公益信託制度の施行準備に関する研究会参与として社会に貢献した。また、特許庁職員等に向けた民法の講義を担当した。